

# グラフィック・ファシリテーションによる対話の促進の可能性

玉有 朋子<sup>1)</sup>、北岡 和義<sup>2)</sup>、小野 恵理<sup>1)</sup>

徳島大学 学長企画室<sup>1)</sup>

徳島大学教養教育院イノベーション教育分野<sup>2)</sup>

## 1. はじめに

近年、教育の現場において対話や合意形成のスキルが求められ、学校や自治体による教職員や若者を対象としたファシリテーター養成講座が各地で行われている。しかし、話し合いを円滑に進行させ、対話を促進するファシリテーションの技術を身につけることは容易ではない。そこで、地方大学・地域産業創生事業の中でも活用している、話し合いを可視化し、ファシリテーションを補助するグラフィック・ファシリテーションの実践的な講座を行い、実際に話し合いにおける主観的な効果についてアンケートを実施した。

## 2. グラフィック・ファシリテーションとは

筆者はグラフィック・ファシリテーションを、リアルタイムで構造化された文字や、「アイコン」を使ったドローイング、図解などにより可視化することで、「対話の内容などを可視化してファシリテーションの効果をより高めるための手法」と定義している（玉有 2019）。

グラフィック・ファシリテーションには様々な手法があるが、基本的な流れは、講演内容や対話をホワイトボードや模造紙に可視化し、参加者は可視化されたもの（グラフィック・レコーディング）を見ながら話を進める、というものである。



図1. 「グラフィック・レコーディング」の一例

同じものを見ながら話を進めるため、話の方向がぶれず、話題の流れもグラフィックで表現されているため、決まったことに対して納得が得られやすいという効果があると考えており、また、容易に描ける単純な絵「アイコン」によって、文字だけでは伝えきれない話し手の感情やその場の雰囲気や伝えられることも特徴として挙げられる。

## 3. グラフィック・ファシリテーションの講座の実施とプログラムデザイン

今回の調査対象であるグラフィック・ファシリテーション講座は令和元年 10 月 27 日（日）10:00~17:00 に、徳島大学フューチャーセンター A.BA にて開催した。参加者は、小学 3 年生から 60 代までの 32 名であった。



図2. ストーリーテリングを行う参加者

講座の内容は以下の通りである。

- 1) グラフィック・ファシリテーションとは
- 2) 基礎のワーク
- 3) アイコン練習
- 4) ストーリーの可視化
- 5) ストーリーテリングペア（発散・収束）
- 6) グラフィック・レコーディング
- 7) テンプレート：バックキャストで描く未来  
可視化のねらいや、ファシリテーションの道具としてどのように可視化を使うかなどを座学を通して学び、「アイコン」の練習や、これを使っ

た表現を学び、実際にペアで話を聞いてその内容を描き合い、描いたものを基にグループで話し合いを行った。図解による合意形成による話し合いの収束を実践するなど、参加者はグラフィック・ファシリテーションの基礎を1日かけて体験した。

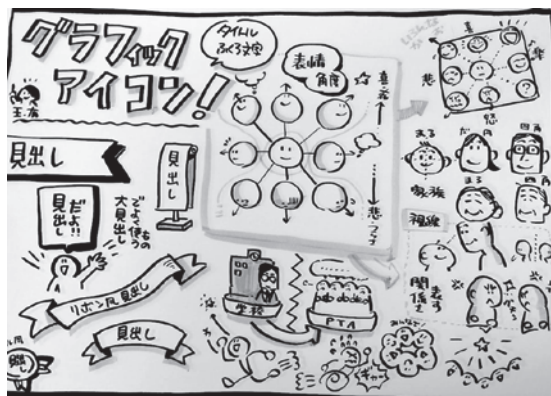


図3. アイコン例

#### 4. グラフィック・ファシリテーション講座アンケート

講座に先立って、参加者には事前アンケートを行った。32名の参加者の中で30名の回答が得られた。

今まで参加した話し合いや会議で困ったことはありましたか?という質問には、図4ような結果が得られた。

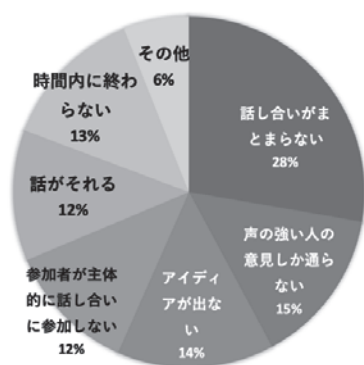


図4. 事前アンケート

講座後のアンケートでは、「グラフィック・ファシリテーションは話し合いや会議で役立ちそうですか?」という質問に対しては「とても役に立ちそう」、「役に立ちそう」、「やや役に立ちそう」

が合計97%、「どちらとも言えない」が3%であり、概ね役に立ちそうであるという結果が得られた。

この質問の理由については、記述形式での回答で「見える化することで整理できる。構造が明確になる。」「可視化は価値観の違う人達の間話し合いに有効だと思う。」「視覚化することで、声のデカい人以外の意見も拾える。」「見える化すると話しの進み方や反応が良いほうに進んでいく。」

「とても面白く実践的で、これから使えそうだった(会議のメモ・アイデアなど...)」といった、話し合いにおける可視化の効果に対する気づきが多数窺えた。

また、「会議でまとめをやったことが意外に少なかったから」といったような、グラフィック以外の話し合いの手法を学べたという意見や、「ちょっと練習が必要かもしれない」「実際の会議でどのように使うかを、少し迷っている。」といった、グラフィック・ファシリテーション導入に対する難しさを示唆する意見もあった。

#### 5. グラフィック・ファシリテーションの課題と今後

アンケートの結果、グラフィック・ファシリテーション講座の参加者にとって、話し合いや合意形成にグラフィック・ファシリテーションが有効であるととらえられていることが明らかとなった。一方で、通常の会議の中でどのようにグラフィック・ファシリテーションを導入していくか、また、利用に関する現在の課題として、練習が必要であるといったこともアンケートの回答などから窺えた。

今後は、参加者の現状を基にした実際の会議などへの導入例や、普段の練習方法を学ぶ場も提供することが必要であると考えられる。

#### 6. 参考文献

玉有朋子. 2019. 「グラフィック・ファシリテーション」. 鈴木康久, 嘉村賢州, 谷口知弘 (編) 『初めてのファシリテーション—実践者が語る手法と事例』 昭和堂, p48.